大学番号 私立142

設置年度　　平成　　３１年度

計画の区分：　大学の設置

認可

長岡崇徳大学　　看護学部　　看護学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人悠久崇徳学園
令和３年５月１日現在

作成担当者

担当部局（課）名	企画・連携課
職名・氏名	課長（カチョウ）・内山（ウチヤマ）　卓秋（タカアキ）
電話番号	０２５８－４６－６６６６
（夜間）	－
ｅ－mail	soumu@sutoku-u.ac.jp

（注）１　「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

２　大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院　・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し，その下欄に（　　）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例）　〇〇大学　△△学部　□□学科
（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例）
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学　△△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学　△△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科　〇〇専攻（修士課程）」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科（通信教育課程）」

３　大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和３年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞　　ページ

１．調査対象大学等の概要等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
２．授業科目の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
３．施設・設備の整備状況、経費　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13
４．既設大学等の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14
５．教員組織の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
６．附帯事項等に対する履行状況等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25
７．その他全般的事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26

１　調査対象大学等の概要等

（１）設　置　者

学校法人悠久崇徳学園

（２）大　学　名

長岡崇徳大学

（３）調査対象大学等の位置

〒９４０－２１３５
新潟県長岡市深沢町２２７８番地８

（注）・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（　）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

（４）管理運営組織

職　　名	設　　置　　時	変　更　状　況	備　　考
理 事 長	（タミヤ　タカシ） 田宮　崇 （平成26年7月）	該当なし	該当なし
学　　長	（モリ　ヒロシ） 森　啓 （平成31年4月）	該当なし	該当なし
学 部 長	（ナカムラ　エツコ） 中村　悦子 （平成31年4月）	該当なし	該当なし
学科長等	（ナカムラ　エツコ） 中村　悦子 （平成31年4月）	該当なし	該当なし

（注）・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（　）書きで記入してください。
（例）令和２年度に報告済の内容　→（２）
令和３年度に報告する内容　→（３）
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に，「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

（５）　調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

（注）・　当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
・　なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
・　様式は、平成２９年度開設の４年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和２年度までの５年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が４年以下の場合には欄を削除し、５年以上の場合には、欄を設けてください。）
・　留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・　短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

（５）－①　調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	４年	８０人	該当なし 人	３２０人		該当なし

（注）・　定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（　）書きで記入してください。
・　基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・　「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第２号（その２の１））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
・　学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

（５）－②　調査対象学部等の入学者の状況

区分＼対象年度	平成２９年度		平成３０年度		令和元年度		令和２年度		令和３年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A　入学定員	人 － （－） ［－］	人	人 － （－） ［－］	人	人 80 （－） ［－］	人	人 80 （－） ［－］	人	人 80 （－） ［－］	人	0.72倍	－	該当なし
志願者数	－ （－） ［－］	－ （－） ［－］	－ （－） ［－］	－ （－） ［－］	94 （－） ［－］	－ （－） ［－］	93 （－） ［－］	－ （－） ［－］	163 （－） ［－］	－ （－） ［－］			
受験者数	－ （－） ［－］	－ （－） ［－］	－ （－） ［－］	－ （－） ［－］	88 （－） ［－］	－ （－） ［－］	91 （－） ［－］	－ （－） ［－］	161 （－） ［－］	－ （－） ［－］			
合格者数	－ （－） ［－］	－ （－） ［－］	－ （－） ［－］	－ （－） ［－］	82 （－） ［－］	－ （－） ［－］	87 （－） ［－］	－ （－） ［－］	142 （－） ［－］	－ （－） ［－］			
B　入学者数	－ （－） ［－］	－ （－） ［－］	－ （－） ［－］	－ （－） ［－］	43 （－） ［－］	－ （－） ［－］	58 （－） ［－］	－ （－） ［－］	74 （－） ［－］	－ （－） ［－］			
入学定員超過率 B／A	－		－		0.53		0.72		0.92				

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　（　）内には、編入学の状況について**外数で**記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、((　))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。 該当がない年度には「－」を記入してください。
・　転入学生は記入しないでください。
・　［　］内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・　「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで記入してください。
・　「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和３年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
・「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「－」を記入してください。

（５）－③　調査対象学部等の在学者の状況

学年＼対象年度	平成２９年度		平成３０年度		令和元年度		令和２年度		令和３年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
１年次	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	40 [－] (－)	－ [－] (－)	58 [－] (－)	－ [－] (－)	74 [－]	－ [－]	該当なし
２年次			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	40 [－] (－)	－ [－] (－)	56 [－] (－)	－ [－] (－)	
３年次					－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	39 [－] (－)	－ [－] (－)	
４年次							－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
計	－ [－] (－)		－ [－] (－)		40 [－] (－)		98 [－] (－)		169 [－] (－)		

・令和３年５月１日　公表

（注）・　報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）

・［　　］内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。

・（　）内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「－」を記入してください。

・　編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。

・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。

・　「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

（５）－④　調査対象学部等の退学者等の状況

区分 / 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳 入学した年度	内訳 退学者数	内訳 退学者数 うち留学生数	主な退学理由（留学生の理由は[ ]書き）
平成29年度	0 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	
平成30年度	0 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	43 人	3 人	平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	3 人	0 人	就学意欲の低下（3人）
令和2年度	98 人	3 人	平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	1 人	0 人	学生個人の心身に関する事情（1人）
			令和2年度	2 人	0 人	学生個人の心身に関する事情（2人）
令和3年度	169 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
合　計		6 人		6 人	0 人	

（注）・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。（在学者数から退学者数を減らす必要はありません。）
・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下（○人）」というように、その人数も含めて記入してください。
（記入項目例）・就学意欲の低下　・学力不足　・他の教育機関への入学・転学　・海外留学
・就職　・学生個人の心身に関する事情　・家庭の事情　・除籍　・その他

（５）－⑤　調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

平成29年度の退学者数(a) / 平成29年度の在学者数(b) = 0 / 0 = #DIV/0! %

【平成30年度】

平成30年度の退学者数(a) / 平成30年度の在学者数(b) = 0 / 0 = #DIV/0! %

【令和元年度】

令和元年度の退学者数(a) / 令和元年度の在学者数(b) = 3 / 43 = 6.97 %

【令和2年度】

令和2年度の退学者数(a) / 令和2年度の在学者数(b) = 3 / 98 = 3.06 %

【令和3年度】

令和3年度の退学者数(a) / 令和3年度の在学者数(b) = 0 / 169 = 0 %

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

２　授業科目の概要

＜看護学部　看護学科＞

（１）ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
基礎教育科目	情報処理法	1前	1								1
	情報活用法	1後	1								1
	統計分析法	3前	1								1
	問題解決法	1後		2							1
	英語Ⅰ	1前	2								1
	英語Ⅱ	1後		2							1
	日本語Ⅰ	1前	1								1
	日本語Ⅱ	1前		1							1
	日本語Ⅲ	1後		1							1
	日本語Ⅳ	4前		1		1					
	中国語	4前		2							1
	韓国語	4前		2							1
	地域活動論	1前		2							1
	コミュニケーション論	1後	2								1
	リーダーシップ論	4後		1		1					
	キャリアデザインⅠ	1前	1			1					
	キャリアデザインⅡ	2前		1		1					
	キャリアデザインⅢ	4前		1		1					
	発達心理学	1前		2							1
	生命倫理学	1後	2								1
	健康スポーツⅠ	1前		1							1
	健康スポーツⅡ	1後		1							1
	歴史と文化	2後		2		1					
	民族と宗教	4後		2							1
	自然環境論	1後		2							1
	日本国憲法	1後	2								1
	福祉と保障	1後		2							1
	経済と政策	4後		2							1
	国際ボランティア論	4後		1		1	1				
	スタディスキルズ	1前	1			3					
	看護教育のための生物学	1前			1						1
	看護教育のための化学	1前			1						1
	小計（32科目）	－	14	31	2	5	1	0	0	0	17
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1								1
	栄養学	1後	2								1
	感染免疫学	2前	2								1
	疾病治療論Ⅰ（循環器）	2前	1								1
	疾病治療論Ⅱ（呼吸器・消化器）	2前	1								2
	疾病治療論Ⅲ（内分泌・腎・代謝・婦人科）	2前	1								2
	疾病治療論Ⅳ（造血器・運動器）	2後	1								2
	疾病治療論Ⅴ（脳神経・精神）	2後	1								2
	病理病態学	4後		1							1
	薬理学	2前	1								1
	保健統計学	2後	2								1
	保健医療福祉行政論	1後	2								1
	公衆衛生学	2前	1								1
	看護関係法規	4後	1								1
	疫学	2後		2							1
	小計（17科目）	－	21	3	0	0	0	0	0	0	16

【令和３年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
基礎教育科目	情報処理法	1前	1								1
	情報活用法	1後	1								1
	統計分析法	3前	1								1
	問題解決法	1後		2							1
	英語Ⅰ	1前	2								1
	英語Ⅱ	1後		2							1
	日本語Ⅰ	1前	1								1
	日本語Ⅱ	1前		1							1
	日本語Ⅲ	1後		1							1
	日本語Ⅳ	4前		1		1					
	中国語	4前		2							1
	韓国語	4前		2							1
	地域活動論	1前		2							1
	コミュニケーション論	1後	2								1
	リーダーシップ論	4後		1		1					
	キャリアデザインⅠ	1前	1			1					
	キャリアデザインⅡ	2前		1		1					
	キャリアデザインⅢ	4前		1		1					
	発達心理学	1前		2							1
	生命倫理学	1後	2								1
	健康スポーツⅠ	1前		1							1
	健康スポーツⅡ	1後		1							1
	歴史と文化	2後		2		1					
	民族と宗教	4後		2							1
	自然環境論	1後		2							1
	日本国憲法	1後	2								1
	福祉と保障	1後		2							1
	経済と政策	4後		2							1
	国際ボランティア論	4後		1		1	1				
	スタディスキルズ	1前	1			3					
	看護教育のための生物学	1前			1						1
	看護教育のための化学	1前			1						1
	小計（32科目）	－	14	31	2	5	1	0	0	0	17
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1								1
	栄養学	1後	2								1
	感染免疫学	2前	2								1
	疾病治療論Ⅰ（循環器）	2前	1								1
	疾病治療論Ⅱ（呼吸器・消化器）	2前	1								2
	疾病治療論Ⅲ（内分泌・腎・代謝・婦人科）	2前	1								2
	疾病治療論Ⅳ（造血器・運動器）	2後	1								2
	疾病治療論Ⅴ（脳神経・精神）	2後	1								2
	病理病態学	4後		1							1
	薬理学	2前	1								1
	保健統計学	2後	2								1
	保健医療福祉行政論	1後	2								1
	公衆衛生学	2前	1								1
	看護関係法規	4後	1								1
	疫学	2後		2							1
	小計（17科目）	－	21	3	0	0	0	0	0	0	16

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	看護学概論	1前	1			1					
	看護援助論	1前	2			1		1			
	基礎看護技術演習Ⅰ	1前	2			1		1			
	基礎看護技術演習Ⅱ	1後	2			1		1			
	基礎看護技術演習Ⅲ	2後	2			1		1			
	看護倫理	3前	1			1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1		2	1		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1		2	3		
	チーム医療論	1前	1			1		1			1
	成人看護学概論	2前	1			1					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2				1				
	成人看護援助論Ⅱ	2前	2					1			
	成人看護援助論Ⅲ	2後	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2			1	1	1			
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1			
	成人看護学実習Ⅲ	4前	1			2	1	1			
	老年看護学概論	2前	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	老年看護援助論Ⅱ	3前	1			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	2			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2			2		1	1		
	小児看護学概論	2前	1			1					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	小児看護学実習	3後	2			1			2		
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1			2					
	母性看護学実習	3後	2			2					
	精神看護学概論	2前	1			1					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1			2		1			
	精神看護学実習	3後	2			3		1			
	地域包括ケア論	1前	1			1		1			1
	在宅看護学概論	2前	1			1					
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	在宅看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	在宅看護学実習	3後	2			1	1		2		
	公衆衛生看護学概論	1後		2		1					2
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2前		2		1			1		1
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2		1			1		
	公衆衛生看護支援技術	2後		2		1			2		
	地域診断論	3前		1		1			1		
	健康教育論	3前		1							1
	公衆衛生看護活動展開論実習	4前		3		2			2		
	個人・家族・集団・組織の支援実習	4前		2		2			2		
	災害看護論	2前	1				1				
	災害看護活動論Ⅰ	3前	1				1				
	災害看護活動論Ⅱ	4後		1			1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	看護学概論	1前	1			1					
	看護援助論	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅰ	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅱ	1後	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅲ	2後	2			1		1	1		
	看護倫理	3前	1			1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1		1	3		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1		1	5		
	チーム医療論	1前	1			1		0			1
	成人看護学概論	2前	1			1					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2				1				
	成人看護援助論Ⅱ	2前	2					1			
	成人看護援助論Ⅲ	2後	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2			1	1	1			
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1			
	成人看護学実習Ⅲ	4前	1			2	1	1			
	老年看護学概論	2前	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ	2後	2			1			1		
	老年看護援助論Ⅱ	3前	1			1		0	1		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	2			1		0	1		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2			1		0	1		
	小児看護学概論	2前	1			1					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	小児看護学実習	3後	2			1			2		
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1			2					
	母性看護学実習	3後	2			2					
	精神看護学概論	2前	1			1					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1			2		0	1		
	精神看護学実習	3後	2			3		0	1		
	地域包括ケア論	1前	1			1		0	1		1
	在宅看護学概論	2前	1			1					
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	在宅看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	在宅看護学実習	3後	2			1	1		2		
	公衆衛生看護学概論	1後		2		1					2
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2前		2		1			1		1
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2		1			1		
	公衆衛生看護支援技術	2後		2		1			2		
	地域診断論	3前		1		1			1		
	健康教育論	3前		1							1
	公衆衛生看護活動展開論実習	4前		3		2			2		
	個人・家族・集団・組織の支援実習	4前		2		2			2		
	災害看護論	2前	1				1				
	災害看護活動論Ⅰ	3前	1				1				
	災害看護活動論Ⅱ	4後		1			1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	看護管理論	4前	1			1					
	国際看護論	4前		1			1				
	看護情報論	4後		1		1					
	医療安全論	4後		1		1					
	統合実践演習	4前	1				1	2	2		
	統合実践実習	4前	2			12	2	4	5		
	看護学研究法	3前	2			3					
	看護課題研究	4通	2			13	2	4	5		
	看護実践力演習	4後		1		1					
	家族看護論	3前		2		1					
	へき地看護論	4前		1		1					
	リハビリテーション看護	4前		1		1					
	緩和・ターミナルケア看護論	4後		2		1	1				
	認知症ケア論	4後		2		2					
	小計(63科目)	－	69	28	0	13	2	4	5	0	3
合計(112科目)		－	104	62	2	14	2	4	5	0	34

卒業要件及び履修方法

基礎教育科目では必修科目14単位、選択科目から16単位以上を選択し、計30単位以上を修得する。専門教育科目では、専門基礎科目として必修科目21単位、専門科目として必修科目69単位、選択科目「看護の統合と実践」「特論」から6単位以上を選択し、計96単位以上を修得する。従って、合計126単位以上を修得すること。

【履修科目の登録上限:45単位(年間)】

保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件(126単位)の他に、保健師教育課程に必要な科目17単位を修得し、合計143単位以上を修得することとする。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	看護管理論	4前	1			1					
	国際看護論	4前		1		1	1				
	看護情報論	4後		1		1					
	医療安全論	4後		1		1					
	統合実践演習	4前	1				1	2	3		
	統合実践実習	4前	2			11	2	2	7		
	看護学研究法	3前	2			3					
	看護課題研究	4通	2			12	2	2	7		
	看護実践力演習	4後		1		1			1		
	家族看護論	3前		2		1					
	へき地看護論	4前		1		1					
	リハビリテーション看護	4前		1		1					
	緩和・ターミナルケア看護論	4後		2		1	1				
	認知症ケア論	4後		2		1					
	小計(63科目)	－	69	28	0	12	2	2	7	0	3
合計(112科目)		－	104	62	2	14	2	2	7	0	34

卒業要件及び履修方法

基礎教育科目では必修科目14単位、選択科目から16単位以上を選択し、計30単位以上を修得する。専門教育科目では、専門基礎科目として必修科目21単位、専門科目として必修科目69単位、選択科目「看護の統合と実践」「特論」から6単位以上を選択し、計96単位以上を修得する。従って、合計126単位以上を修得すること。

【履修科目の登録上限:48単位(年間)】

保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件(126単位)の他に、保健師教育課程に必要な科目17単位を修得し、合計143単位以上を修得することとする。

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	情報処理法	1前	1								1
	情報活用法	1後	1								1
	統計分析法	3前	1								1
	問題解決法	1後		2							1
	英語Ⅰ	1前	2								1
	英語Ⅱ	1後		2							1
	日本語Ⅰ	1前	1								1
	日本語Ⅱ	1前		1							1
	日本語Ⅲ	1後		1							1
	日本語Ⅳ	4前		1		1					
	中国語	4前		2							1
	韓国語	4前		2							1
	地域活動論	1前		2							1
	コミュニケーション論	1後	2								1
	リーダーシップ論	4後		1		1					
	キャリアデザインⅠ	1前	1			1					
	キャリアデザインⅡ	2前		1		1					
	キャリアデザインⅢ	4前		1		1					
	発達心理学	1前		2							1
	生命倫理学	1後	2								1
	健康スポーツⅠ	1前		1							1
	健康スポーツⅡ	1後		1							1
	歴史と文化	2後		2		1					
	民族と宗教	4後		2							1
	自然環境論	1後		2							1
	日本国憲法	1後	2								1
	福祉と保障	1後		2							1
	経済と政策	4後		2							1
	国際ボランティア論	4後		1		1	1				
	スタディスキルズ	1前	1			3					
	看護教育のための生物学	1前			1						1
	看護教育のための化学	1前			1						1
	小計(32科目)	－	14	31	2	5	1	0	0	0	17
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1								1
	栄養学	1後	2								1
	感染免疫学	2前	2								1
	疾病治療論Ⅰ(循環器)	2前	1								1
	疾病治療論Ⅱ(呼吸器・消化器)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅲ(内分泌・腎・代謝・婦人科)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅳ(造血器・運動器)	2後	1								2
	疾病治療論Ⅴ(脳神経・精神)	2後	1								2
	病理病態学	4後		1							1
	薬理学	2前	1								1
	保健統計学	2後	2								1
	保健医療福祉行政論	1後	2								1
	公衆衛生学	2前	1								1
	看護関係法規	4後	1								1
	疫学	2後		2							1
	小計(17科目)	－	21	3	0	0	0	0	0	0	16

【令和２年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	情報処理法	1前	1								1
	情報活用法	1後	1								1
	統計分析法	3前	1								1
	問題解決法	1後		2							1
	英語Ⅰ	1前	2								1
	英語Ⅱ	1後		2							1
	日本語Ⅰ	1前	1								1
	日本語Ⅱ	1前		1							1
	日本語Ⅲ	1後		1							1
	日本語Ⅳ	4前		1		1					
	中国語	4前		2							1
	韓国語	4前		2							1
	地域活動論	1前		2							1
	コミュニケーション論	1後	2								1
	リーダーシップ論	4後		1		1					
	キャリアデザインⅠ	1前	1			1					
	キャリアデザインⅡ	2前		1		1					
	キャリアデザインⅢ	4前		1		1					
	発達心理学	1前		2							1
	生命倫理学	1後	2								1
	健康スポーツⅠ	1前		1							1
	健康スポーツⅡ	1後		1							1
	歴史と文化	2後		2		1					
	民族と宗教	4後		2							1
	自然環境論	1後		2							1
	日本国憲法	1後	2								1
	福祉と保障	1後		2							1
	経済と政策	4後		2							1
	国際ボランティア論	4後		1		1	1				
	スタディスキルズ	1前	1			3					
	看護教育のための生物学	1前			1						1
	看護教育のための化学	1前			1						1
	小計(32科目)	－	14	31	2	5	1	0	0	0	17
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅱ	1前	2								1
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1								1
	栄養学	1後	2								1
	感染免疫学	2前	2								1
	疾病治療論Ⅰ(循環器)	2前	1								1
	疾病治療論Ⅱ(呼吸器・消化器)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅲ(内分泌・腎・代謝・婦人科)	2前	1								2
	疾病治療論Ⅳ(造血器・運動器)	2後	1								2
	疾病治療論Ⅴ(脳神経・精神)	2後	1								2
	病理病態学	4後		1							1
	薬理学	2前	1								1
	保健統計学	2後	2								1
	保健医療福祉行政論	1後	2								1
	公衆衛生学	2前	1								1
	看護関係法規	4後	1								1
	疫学	2後		2							1
	小計(17科目)	－	21	3	0	0	0	0	0	0	16

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	看護学概論	1前	1			1					
	看護援助論	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅰ	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅱ	1後	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅲ	2後	2			1		1	1		
	看護倫理	3前	1			1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1		1	2		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1		1	4		
	チーム医療論	1前	1			1		1			1
	成人看護学概論	2前	1			1					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2				1				
	成人看護援助論Ⅱ	2前	2					1			
	成人看護援助論Ⅲ	2後	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2			1	1	1			
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1			
	成人看護学実習Ⅲ	4前	1			2	1	1			
	老年看護学概論	2前	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	老年看護援助論Ⅱ	3前	1			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	2			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2			2		1	1		
	小児看護学概論	2前	1			1					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	小児看護学実習	3後	2			1			2		
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1			2					
	母性看護学実習	3後	2			2					
	精神看護学概論	2前	1			1					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1			2		0			
	精神看護学実習	3後	2			3		0			
	地域包括ケア論	1前	1			1		1			1
	在宅看護学概論	2前	1			1					
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	在宅看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	在宅看護学実習	3後	2			1	1		2		
	公衆衛生看護学概論	1後		2		1					2
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2前		2		1			1		1
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2		1			1		
	公衆衛生看護支援技術	2後		2		1			2		
	地域診断論	3前		1		1			1		
	健康教育論	3前		1							1
	公衆衛生看護活動展開論実習	4前		3		2			2		
	個人・家族・集団・組織の支援実習	4前		2		2			2		
	災害看護論	2前	1				1				
	災害看護活動論Ⅰ	3前	1				1				
	災害看護活動論Ⅱ	4後		1			1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	看護学概論	1前	1			1					
	看護援助論	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅰ	1前	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅱ	1後	2			1		1	1		
	基礎看護技術演習Ⅲ	2後	2			1		1	1		
	看護倫理	3前	1			1					
	基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			1		1	3		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			1		1	5		
	チーム医療論	1前	1			1		1			1
	成人看護学概論	2前	1			1					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2				1				
	成人看護援助論Ⅱ	2前	2					1			
	成人看護援助論Ⅲ	2後	1				1	1			
	成人看護学実習Ⅰ	3後	2			1	1	1			
	成人看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1			
	成人看護学実習Ⅲ	4前	1			2	1	1			
	老年看護学概論	2前	1			1					
	老年看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	老年看護援助論Ⅱ	3前	1			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅰ	3後	2			2		1	1		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	2			2		1	1		
	小児看護学概論	2前	1			1					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	小児看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	小児看護学実習	3後	2			1			2		
	母性看護学概論	2前	1			1					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	母性看護援助論Ⅱ	3前	1			2					
	母性看護学実習	3後	2			2					
	精神看護学概論	2前	1			1					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2			1					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	1			2		0	1		
	精神看護学実習	3後	2			3		0	1		
	地域包括ケア論	1前	1			1		1			1
	在宅看護学概論	2前	1			1					
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2			1			2		
	在宅看護援助論Ⅱ	3前	1			1			2		
	在宅看護学実習	3後	2			1	1		2		
	公衆衛生看護学概論	1後		2		1					2
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	2前		2		1			1		1
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	2後		2		1			1		
	公衆衛生看護支援技術	2後		2		1			2		
	地域診断論	3前		1		1			1		
	健康教育論	3前		1							1
	公衆衛生看護活動展開論実習	4前		3		2			2		
	個人・家族・集団・組織の支援実習	4前		2		2			2		
	災害看護論	2前	1				1				
	災害看護活動論Ⅰ	3前	1				1				
	災害看護活動論Ⅱ	4後		1			1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	看護管理論	4前	1			1					
	国際看護論	4前		1			1				
	看護情報論	4後		1		1					
	医療安全論	4後		1		1					
	統合実践演習	4前	1				1	2	3		
	統合実践実習	4前	2			12	2	3	6		
	看護学研究法	3前	2			3					
	看護課題研究	4通	2			13	2	3	6		
	看護実践力演習	4後		1		1			1		
	家族看護論	3前		2		1					
	へき地看護論	4前		1		1					
	リハビリテーション看護	4前		1		1					
	緩和・ターミナルケア看護論	4後		2		1	1				
	認知症ケア論	4後		2		2					
	小計（63科目）	－	69	28	0	13	2	3	6	0	3
合計（112科目）		－	104	62	2	14	2	3	6	0	34

卒業要件及び履修方法

基礎教育科目では必修科目14単位、選択科目から16単位以上を選択し、計30単位以上を修得する。専門教育科目では、専門基礎科目として必修科目21単位、専門科目として必修科目69単位、選択科目「看護の統合と実践」「特論」から6単位以上を選択し、計96単位以上を修得する。従って、合計126単位以上を修得すること。

【履修科目の登録上限:45単位（年間）】

保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件（126単位）の他に、保健師教育課程に必要な科目17単位を修得し、合計143単位以上を修得することとする。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	看護管理論	4前	1			1					
	国際看護論	4前		1			1				
	看護情報論	4後		1		1					
	医療安全論	4後		1		1					
	統合実践演習	4前	1				1	2	3		
	統合実践実習	4前	2			12	2	3	7		
	看護学研究法	3前	2			3					
	看護課題研究	4通	2			13	2	3	7		
	看護実践力演習	4後		1		1			1		
	家族看護論	3前		2		1					
	へき地看護論	4前		1		1					
	リハビリテーション看護	4前		1		1					
	緩和・ターミナルケア看護論	4後		2		1	1				
	認知症ケア論	4後		2		2					
	小計（63科目）	－	69	28	0	13	2	3	7	0	3
合計（112科目）		－	104	62	2	14	2	3	7	0	34

卒業要件及び履修方法

基礎教育科目では必修科目14単位、選択科目から16単位以上を選択し、計30単位以上を修得する。専門教育科目では、専門基礎科目として必修科目21単位、専門科目として必修科目69単位、選択科目「看護の統合と実践」「特論」から6単位以上を選択し、計96単位以上を修得する。従って、合計126単位以上を修得すること。

【履修科目の登録上限:48単位（年間）】

保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件（126単位）の他に、保健師教育課程に必要な科目17単位を修得し、合計143単位以上を修得することとする。

（注）
- 報告年度の５月１日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- 認可申請書又は設置届出書の様式第２号（その２の１）に準じて作成してください。
- 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
- 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
- １ページ目には認可時又は届出時と報告年度２つの表を記入してください。
- 不要な年度（令和元年度開設であれば平成３０年度）の表は適宜削除してください。（２つの表が１ページに表示されるようにしてください。）
- 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

（１）ー②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

・専任教員（講師）1名就任辞退の理由により、「基礎看護学実習Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「講師２」から「講師１」に変更。
・同上理由により、「精神看護援助論」「精神看護学実習」の専任教員等の配置を「講師１」から「講師０」に変更。
・同上理由により、「統合実践実習」「看護課題研究」の専任教員等の配置を「講師４」から「講師３」に変更。
・専任教員（助教）1名就任の理由により、「看護援助論」「基礎看護技術演習Ⅰ」「基礎看護技術演習Ⅱ」「基礎看護技術演習Ⅲ」「看護実践力演習」の専任教員等の配置を「助教０」から「助教１」に変更。
・同上理由により、「基礎看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教１」から「助教２」に、「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教３」から「助教４」に変更。
・同上理由により、「統合実践演習」の専任教員等の配置を「助教２」から「助教３」に、「統合実践実習」「看護課題研究」の専任教員等の配置を「助教５」から「助教６」に変更。

【令和２年度】

・専任教員（助教）1名就任の理由により、「基礎看護学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教２」から「助教３」に変更。
・同上理由により、「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員配置を「助教４」から「助教５」に変更。
・同上理由により、「精神看護援助論Ⅱ」「精神看護学実習」の専任教員配置を「助教０」から「助教１」に変更。
・同上理由により、「統合実践実習」「看護課題研究」の専任教員配置を「助教６」から「助教７」に変更。
・保健師教育課程を履修する学生に対し選択科目の幅を広げるため、卒業要件及び履修方法において、履修科目の登録上限を「45単位(年間)」から「48単位(年間)」に変更。

【令和３年度】

・専任教員（教授）1名退職により、「老年看護援助論Ⅱ」「老年看護学実習Ⅰ」「老年看護学実習Ⅱ」「認知症ケア論」の専任教員配置を「教授２」から「教授１」に、「統合実践実習」を「教授１２」から「教授１１」に、「看護課題研究」を「教授１３」から「教授１２」に変更。
・専任教員（講師）1名退職により、「チーム医療論」「老年看護援助論Ⅱ」「老年看護学実習Ⅰ」「老年看護学実習Ⅱ」「地域包括ケア論」の専任教員配置を「講師１」から「講師０」に、「統合実践実習」「看護課題研究」を「講師３」から「講師２」に変更。
・令和2年度第4回AC教員審査において、専任教員が下記科目の資格有りと判定。
「老年看護援助論Ⅰ」（助教1名）　「助教０」から「助教１」に変更。
「地域包括ケア論」（助教1名）　「助教０」から「助教１」に変更。
「国際看護論」（教授1名）　「教授０」から「教授１」に変更。

（注）・　２（１）ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・　不要な年度（平成３０年度開設であれば平成２９年度）の表は適宜削除してください。

（２） 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（Ａ）	必修	選択	自由	計	
70 科目	40 科目	2 科目	112 科目	70 科目 [0]	40 科目 [0]	2 科目 [0]	112 科目 [0]	

（注）・　未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、［　］内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：１科目減の場合：△１）

（３） 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

（注）・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

（４） 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

（注）・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

（５） 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

（注）・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

（６） 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（A）}} = \frac{0}{112} = 0\%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

３　施設・設備の整備状況，経費

区分		内容				備考
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	借用地/校舎敷地：借用面積21,553.20㎡、期間25年 ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ：借用面積8,007㎡、期間25年 運動場用地：校舎敷地と別地（徒歩5分）
	校舎敷地	20,921.80 ㎡	819.34 ㎡	0 ㎡	21,741.14 ㎡	
	運動場用地	8,007.00 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	8,007.00 ㎡	
	小計	28,928.80 ㎡	819.34 ㎡	0 ㎡	29,748.14 ㎡	
	その他	0 ㎡	6,422.22 ㎡	0 ㎡	6,422.22 ㎡	
	合計	28,928.80 ㎡	7,241.56 ㎡	0 ㎡	36,170.36 ㎡	
(2) 校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	借用面積 21,553.20㎡ 期間25年
		10,071.76 ㎡ (8,561.90 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	10,071.76 ㎡ (8,561.90 ㎡)	

(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	備考
	４室	15室	５室	１室 （補助職員 人）	０室 （補助職員 人）	大学全体

(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	備考
	看護学部 看護学科	22 ~~21~~ 室	令和２年４月 専任教員（助教）１名を新規採用のため（２）

(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	備考
	看護学部	26,400〔1,200〕 (28,859〔636〕)	92〔10 〕 (58〔0〕)	6〔6〕 (2〔2〕)	750 (127)	3,699 (3,699)	25 (25)	
	計	26,400〔1,200〕 (28,859〔636〕)	92〔10 〕 (58〔0〕)	6〔6〕 (2〔2〕)	750 (127)	3,699 (3,699)	25 (25)	

(6) 図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	備考
	740.31㎡	102	40,000	

(7) 体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		備考
	587.42㎡	該当なし	該当なし	

(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り 区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	備考
	教員１人当り研究費等	300 ~~450~~千円	300 ~~450~~千円	図書購入費	20,000千円	1,000千円	1,000千円	教員研究費等見直しのため（元） 教員研究費等見直しのため（３） 図書費には電子ｼﾞｬｰﾅﾙ、ﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽの整備費を含む
	共同研究費等	4,000千円	4,000千円	設備購入費	150,000千円	０千円	０千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,950千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	千円	千円

学生納付金以外の維持方法の概要	寄付金収入、補助金収入、雑収入等

（注）・　設置時の計画を、申請書の様式第２号（その１の１）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（１）校地等」及び「（２）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はＡＣ対象学部等の数値を記入してください。）

・　運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。

・　「(５)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和３年５月１日現在の数値を記入してください。

・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（２）」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・　校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。

・　国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

４．既設大学等の状況

大学の名称	長岡崇徳大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
看護学部	4	80	0	320	学士（看護学）	0.72	0.92	－	平成31	－	
看護学科	4	80	0	320	学士（看護学）	0.72	0.92	－	平成31	新潟県長岡市深沢町2278番地８	
大学全体	4	80	0	320	－	－	－	－	－	－	

大学の名称	該当なし						学生募集停止学科数	－	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	－	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍				
該当なし											

（注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の５月１日現在の状況を記入してください。（専攻科及び別科を除く）。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください

・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。

・本年度ＡＣ対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。

・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和３年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。

・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

（１）ー②担当教員表に関する変更内容

【平成３０年度】

・川内健三講師就任辞退。後任未定。

【令和元年度】

・家庭の事情により、髙島葉子教授の就任が平成31年４月から令和元年10月に遅延。
・大﨑美奈子助教就任。平成31年１月教員審査済。
（以下は兼任教員）
・小島留美子兼任講師辞任により、細野留実兼任講師に変更（担当授業科目名：栄養学）

【令和２年度】

・令和２年４月藤田勇助教就任、令和元年11月教員審査済（川内健三講師辞退に伴う補充）
（以下は兼任教員）
・細野留美兼任講師辞任により、渡邊令子兼任講師に変更（担当授業科目名：栄養学）
・下田勝弘兼任講師辞任により、佐合絵里兼任講師に変更（担当授業科目名：薬理学）
・永井恒雄兼任講師辞任により、伊藤正洋兼任講師に変更（担当授業科目名：疾病治療論Ⅰ）
・齋藤興信兼任講師辞任により、冨所隆兼任講師に変更（担当授業科目名：疾病治療論Ⅱ）

【令和３年度】

・望月紀子教授辞任。後任未定であるが、令和３年度に専任教員採用予定で公募予定。また、当年度の担当科目については他に複数の教員で分担するため、授業に支障はない。次年度の担当科目「認知症ケア論」については、老年看護学分野の複数の教員で担当予定（令和３年度中にAC教員審査受審予定）。
・本間美知子講師辞任。後任については候補者１名を新規採用として令和３年６月ＡＣ教員審査受審予定。なお担当科目のうち、「地域包括ケア論」については古澤弘美助教が担当し、「チーム医療論」（オムニバス）については加固正子教授が該当部分を追加して担当する（後述）。
・袖山悦子教授　　令和３年１月教員審査済（担当授業科目名：老年看護援助論Ⅰ）
・角山裕美子助教　令和３年１月教員審査済（担当授業科目名：老年看護援助論Ⅰ）
・古澤弘美助教　　令和３年１月教員審査済（担当授業科目名：地域包括ケア論）
・加固正子教授　　令和３年1月､4月教員審査済（担当授業科目名：国際看護論、チーム医療論/共にオムニバス）
（以下は兼任教員）
・濁川明男兼任講師辞任により、春日良樹兼任講師に変更（担当授業科目名：自然環境論）
・丸山晋司兼任講師辞任により、坂井俊介兼任講師、須藤寛人兼任講師に変更（担当授業科目名：疾病治療論Ⅲ）
・宮川公子兼任講師辞任により、五十嵐直子兼任講師に変更（担当授業科目名：保健医療福祉行政論）
・同上理由により、鈴木翼兼任講師の担当科目を追加（担当授業科目名：公衆衛生学）

（注）・　変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　**認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・　「専任教員採用等変更書（ＡＣ）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・　不要な年度（令和元年度開設であれば平成３０年度）の表は適宜削除してください。

（２） 専任教員数等

（２）－①　設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
19 名	10 名

（注）・　大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

（２）－②　専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教　授	准教授	講　師	助　教	計（A）	助手（A'）	教　授	准教授	講　師	助　教	計（B）	助手（B'）
14	2	4	5	25	10	12	2	2	7	23	1
(9)	(2)	(3)	(6)	(20)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教　授	准教授	講　師	助　教	計（C）	助手（C'）	教　授	准教授	講　師	助　教	計（D）	助手（D'）
13	2	2	7	24	10	14	2	4	7	27	10
[△1]	[　0　]	[△2]	[　2　]	[△1]	[0]	[　0　]	[　0　]	[　0　]	[　2　]	[2]	[0]

（注）・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（　）内に開設時の状況を記入してください。
・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の５月１日の教員数（実人数）を記入してください。
・**「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、［　］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）
・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、［　］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

（２）－③　年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
70 歳	4 名	7 名

（注）・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の５月１日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

（２）－④　設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{24}{25} = 96\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（２）－⑤　現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{4}{23} = 17.39\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（２）－⑥　設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{10}{10} = 100\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３） 専任教員辞任等の理由

（３）－①　専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	講師	川内　健三	H30.11	必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	H30.11　家庭の諸事情のため就任辞退（元）
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	精神看護援助論Ⅱ	①	
				必修	精神看護学実習	①	
				必修	統合実践実習	①	
				必修	看護課題研究	①	

合計（D）				後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
1　人	必修	6	科目	必修	6	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	6	科目	計	6	科目	計	0	科目	計	0 科目

（注）・　認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
・　「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
就任した後に辞任した教員は、以下「（３）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、
「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－②　専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	望月　紀子	R3.3	必修	老年看護援助論Ⅰ	①	R3.3.31付　自己都合のため辞任（３）
				必修	老年看護援助論Ⅱ	①	
				必修	老年看護学実習Ⅰ	①	
				必修	老年看護学実習Ⅱ	①	
				必修	統合実践実習	①	
				選択	認知症ケア論	①	
				必修	看護課題研究	①	
2	講師	本間　美知子	R3.3	必修	チーム医療論	①	R3.3.31付　自己都合のため辞任（３）
				必修	老年看護援助論Ⅱ	①	
				必修	老年看護学実習Ⅰ	①	
				必修	老年看護学実習Ⅱ	①	
				必修	地域包括ケア論	①	
				必修	統合実践実習	①	
				必修	看護課題研究	①	

合計（F）				後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
2　人	必修	13	科目	必修	13	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	14	科目	計	14	科目	計	0	科目	計	0 科目

（注）・　一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について**に記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」
に辞任理由等及び（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－③　上記（３）－①　・　（３）－②　の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）							
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）	
3　人	必修	19	科目	必修	19	科目	必修	0	科目	必修	0 科目
	選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0 科目
	計	20	科目	計	20	科目	計	0	科目	計	0 科目

（３）－④　設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{3}{25} = \boxed{12}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３）－⑤　令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

2	人

（注）・（３）－①、（３）－②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

（３）－⑥　定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし				

合計				後任補充状況の集計								
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
0　人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

（注）・　**定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（４）専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

【大学の所見】
専任教員1名（精神看護学専攻分野）未就任に関し、令和元年度の担当科目が「基礎看護学実習Ⅰ」の1科目のみであったため、他の専任教員で配置した。また、令和2年4月には精神看護学専攻分野の専任教員を1名補充している。
令和2年度末で辞任した2名の専任教員については、2名とも老年看護学専攻分野の教員であり、現在、同専攻分野の教員候補者1名を新規採用としてAC教員審査に申請中である。また、当該2名の担当科目については、現在在籍する3名の専任教員（教授1名、助教2名）が科目の追加によるAC教員審査を受審し、判定「可」となっている。また、演習や実習科目など複数の専任教員で担当する科目は配置等を再検討し授業を行う。よって、現在のところ学生の履修への影響はない。
なお、当年度は看護学部全体を見据えた教員配置を念頭に置き、公募等で計画的に専任教員補充に努めることとし、学生の履修等に支障がないよう配慮する。

【学生への周知方法】
入学生に配布する「学生便覧」での周知や、WEB上のシラバスにおいて学生の授業に支障のないよう周知している。

（注）・　上記（３）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

６　附帯事項等に対する履行状況等

区　　分	附　帯　事　項　等		履　行　状　況		今後の の実施計画
認　可　時 （平成30年）	・設置の趣旨・目的が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から４年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	遵守事項	・遵守事項を踏まえ、4年制大学にふさわしい教育研究活動を実践すべく、教授会をはじめ、学内の各専門委員会がPDCAサイクルに沿って年間計画と目標を定め活動している。また、必要に応じて委員会相互の連携を図り、教育研究水準の更なる向上に努めている。	履行済	
設置計画履行状況調　査　時 （令和元年）	・入学定員未充足の改善に努めること。 （看護学部看護学科）	指摘事項 （改善）	・広報活動に力を入れ、前年度より充足率は改善したものの、未だ充足には至っていない為、引き続き改善に努める。	履行中	・マスメディアを利用して、オープンキャンパス参加者の拡大と大学の認知度を高める ・昨年度の高校訪問を分析し、訪問時期や回数などを再検討する ・ホームページのリニューアルを実施しイメージアップを図る ・出前授業を実施し、看護大学としての認知度を高める ・高校教員向けの説明会を実施し、受験生に対しての認知度を高める
設置計画履行状況調　査　時 （令和２年）	・教育内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。 （看護学部看護学科）	指摘事項 （改善）	・通常のオープンキャンパスに加え、「学びの看護体験」や「一日体験入学」を企画し、高校との連携に努めている。 ・大学の魅力向上を図るため、新潟県の補助事業に申請し2事業が採択された。特に「子育て支援事業」については長岡市とも連携を図り、令和3年度も引き続き実施していくこととしている。また、同事業については地元紙にも取り上げられ、大学認知度向上に寄与したと考える。 ・コロナ禍となり、オープンキャンパス参加の制限があったため、WEB上で視聴可能な動画を制作してアクセス数を確保した。また、同理由により、高校訪問も制限された。 ・令和2年9月よりホームページをリニューアルし、大学のイメージアップを図った。本学の情報をこまめにアップデートできることになり、アクセス数も増えた。 ・出前授業を積極的に実施し、参加校数が倍増した（10校→23校）。 ・高校教員向け説明会に加え、高大接続に関しての意見交換会を実施し意識を高めた。 ・定員充足率が前年度より大幅に改善されたが、引き続き広報活動に注力していく（0.72→0.92）。	履行中	・広報活動のみならず、大学全体で教育研究、地域貢献により大学の認知度を高めていく。 ・高校教員との連携を強め、高校教員が本学を生徒に勧めてもらうためにも、「学びの看護体験」等を通じて、看護大学の教育を高校教諭に理解してもらうための活動を計画している。

（注）・　「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）　と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

・　「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。

・　「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。

・　該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。

・　「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

７　その他全般的事項

＜看護学部　看護学科＞

（１） 設置計画変更事項等

設　置　時　の　計　画	変更内容・状況、今後の見通しなど
【教育課程等の概要】 ・卒業要件及び履修方法 履修科目の登録上限：45単位（年間）	保健師教育課程を履修する学生の幅広い知識の獲得を目的として、選択科目の幅を広げるため、履修規程を改正し、履修科目の登録上限を45単位から48単位へ変更することとした。今後の課題は、１年次・２年次の履修が集中しないように学生へ指導する。
【設置の趣旨等を記載した書類】 ク　入学者選抜の概要 ３　選抜方法 １）実施方法及び定員割合 特別選抜試験と一般選抜試験の募集定員の割合については、特別選抜試験の募集定員を40人、一般選抜試験及び大学入試センター試験による募集定員を40人とする。	ク　入学者選抜の概要 ３　選抜方法 １）実施方法及び定員割合 『令和３年度大学入学者選抜実施要項』（令和２年６月19日付　２文科高第281号文部科学省高等教育局長通知）の第８・募集定員において、「学校推薦型選抜の募集人員が入学定員の5割を超えない範囲において各大学が定める」との規定に基づき､学校推薦型選抜の定員を35人とした。また、社会人の受験が容易になるように社会人特別選抜枠を新設した。 【別添資料１】
３）　一般選抜試験（前期・後期） 一般選抜試験は、学力検査として国語、英語を必修科目とし、数学又は生物から1科目を選択する方式とし、入学志願者の学習能力を合理的に判定する。 ４）大学入試センター試験（前期・後期） 大学入試センター試験は、国語及び英語Ｉを必修科目として、理科、地歴又は公民、数学から1科目を選択のうえ、計3科目が一定の学力水準に達しているか否かの判定に用いることとする。入学者の受入れ方針に基づく、「自ら進んで学ぼうとする人」等については、面接により適切に判断することとしている。	３）、４） 本学のアドミッションポリシーを踏襲しつつ、より多様な能力を持った学生の確保を目的として、一般選抜及び大学入学共通テスト利用選抜において、英語を必修科目から選択科目に変更することとした。これにより、学生の能力・適性を多面的に判定することが可能で、英語については、入学後の教育で充当可能と判断した。 また、大学入学共通テスト利用選抜の学生負担軽減のため、面接を廃止することとした。なお、本学アドミッションポリシーの「自ら進んで学ぼうとする人」の判断については、出願書類の一つである『志望理由書』において確認可能と判断した。
コ　実習の具体的計画 「基礎看護学実習Ⅱ」２年次後期　病院実習 （令和３年２月実施計画）	新型コロナウイルス感染症の影響で、実習予定病院の実習生受入れが困難となったことから、下記のガイドラインに基づき、看護学部長、実習委員会、基礎看護学領域長の総合判断により、病院実習に代えて､演習及び学内実習として実施した。 ○参考資料：『大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドライン』（令和２年６月５日付　２文科高第238号文部科学省高等教育局長通知）４による学修機会の確保等・⑶実技・実習の取扱いを参考とした。

（注）・　１～６の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（２） 教員の資質の維持向上の方策（ＦＤ・ＳＤ活動含む）

① 実施体制

ａ 委員会の設置状況

「長岡崇徳大学ＦＤ委員会規程」（平成31年4月1日制定） 【別添資料２】

令和元年度は教員6名、令和2年度は教員7名、令和3年度は教員7名が担当している。

ｂ 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和2年度開催： 原則毎月1回、必要に応じて臨時開催とし、年間計15回開催した。

開催日（参加数）：4/10（6名） 4/17（6名） 5/28（6名） 6/25（6名） 7/22（6名） 8/19（6名） 9/17（7名） 9/28（7名）10/9（7名）11/13（7名）11/19（7名）12/16（6名）1/28（6名） 2/22（6名）3/22（7名）

なお、体調不良で止むを得ず欠席した教員については、後日議事録で報告した。

ｃ 委員会の審議事項等

本学のＦＤ委員会においては以下の事項を所掌している。
（１）教育研究活動改善の方策に関すること
（２）初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関すること
（３）学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関すること
（４）ＦＤに関する教員への各種コンサルティングに関すること
（５）その他ＦＤに関連すること

また、令和2年度は本学「シミュレーション教育委員会」を吸収し、シミュレーション教育に関する内容を組み込んだ形で活動した。

② 実施状況

ａ 実施内容

1. シミュレーション教育研修
2. 授業評価アンケートの実施
3. 授業のピアレビュー評価
4. 研究方法に関する研修及び研究紹介
5. 長岡技術科学大学との共同研究のための情報交換
6. FD委員会活動に関する教員のアンケートと今年度の活動評価

ｂ 実施方法

1. コロナ禍のため、オンラインによるシミュレーション教育研修を3回シリーズで実施する。
各回でアンケートをとった結果を講師に送り、次回の研修に活かす方法とする。
2. 授業評価アンケートを実施し、結果を次年度授業改善に活かす。
3. 公開授業・見学実施要領に基づき、学内教員が担当する科目について授業見学・評価（ピアレビュー）を実施する。
4. 学内教員による研究報告会を実施する。
5. 本学が所属する崇徳厚生事業団と長岡技術科学大学との包括的連携協定の下で、長岡技大との共同研究について話し合いを持ち、今後の進め方について検討する。
6. FD委員会活動に関する自由記述式のアンケートを実施する。

ｃ 開催状況（教員の参加状況含む）

1. シミュレーション教育研修をオンライン形式・3回シリーズで実施した。
（講師：東京医科大学医学部看護学科 阿部幸恵 氏） 参加率は各回70～85%であった。
2. 前期・後期でアンケートを実施。講義については教務システムで入力、演習・実習については用紙に記入した。教務システムでの回答率は30～50%、用紙記入は100%であった。
3. 新型コロナ感染予防対策のため授業見学者数を2名に限定したことや、特に前期はリモート講義が多く見学者が少なかったが、後期の実績は以下のとおりである。

・実施時期：令和2年10月27日～令和3年1月14日
・公開した授業：9科目
・見学教員：延べ14名

4. 学内教員による研究報告を9月、12月、3月の3回実施した。教員の参加率を上げるため教授会と同日に実施した。出席率は70～80%であった。

5.長岡技大で進めている「毛髪のコルチゾールを用いたストレス研究」が提示され、本学で協力できるメンバーを決めた。今年度はこの研究に直接関わってはいないが、メンバーによる段階的な研究を進めており、今後、技大の研究テーマに共同で研究できる体制を整えていく予定である。開学初年度はシミュレーション教育委員会で研究の進め方について検討していたが、令和2年度からFD委員会に吸収されたため、FD委員会ではシミュレーション教育の促進を図る活動を実施し、今後研究が進むようにして計画していく。

6.今年度の委員会活動に対する教員のアンケートを3/19締めで行った。回答率は57.6%であった。アンケート結果をまとめ教員に配布した。（3/31）

d　実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

シミュレーション教育研修は、初歩的な内容から実践編までわかりやすく講義していただいたので具体的な理解が深まり、今後、各専門領域の教員が次年度から実施していこうとする意欲が高まった。授業見学・評価（ピアレビュー）は主に後期から実施したが、授業見学者が全体的に少なかったため、令和3年度は通年で行うこととし、授業見学の機会を増やしつつピアレビュー評価が実施できるように計画する。授業評価アンケートについては、学生が携帯から学生ポータルサイトへ入力可能とするなど、教務システムの活用を通して回収率のアップを図っているが、システムによるアンケート回収率が低いため、回答率を上げる工夫が必要である。

③　学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a　実施の有無及び実施時期

授業評価アンケートを全学生・全科目対象に実施している。講義については教務システムで入力、演習・実習については用紙記入の方法で実施した。実施時期：年２回（前・後期）

b　教員や学生への公開状況、方法等

回答内容を数値化して大学ホームページ上で公開している。自由記載部分の公開や、授業評価アンケート結果が授業改善にどのように活かされているかの検証が必要と考える。

（注）・「①ａ　委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（３） 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

（４） 自己点検・評価等に関する事項

①　設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

自己点検・評価に関し審議するため、学長諮問委員会として「自己点検・評価委員会」を設置している。本学は設置認可後のACの段階にあるが、同委員会が主導して各委員会活動、及び各教員の教育・研究活動についての点検評価を行っている。それぞれの委員会活動においては、項目ごとに計画・実行・評価・改善へと続くPDCAサイクル手法を取り入れ活動し、年度ごとに「自己点検・評価委員会」において点検評価を実施している。なお、同委員会の構成員はすべての委員会委員長としている。また、私立学校法改正による長中期目標・計画策定を契機に、今後は従来の自己点検評価に加え、業務運営・財務面を含めた自己点検評価を行うこととしている。

②　自己点検・評価報告書

ａ　公表（予定）時期

年度末に各委員会から当該年度の活動報告書の提出を受け、自己点検・評価委員会で、必要な内容が網羅されているか点検し、必要に応じて検討・修正を求め、そのうえでPDCAサイクルシート（学内版）を作成する。同内容を反映させた令和2年度事業報告書については令和3年6月に公表することとしている。
また、現在、令和元年度（開学初年度）から令和2年度の実績をまとめた年報を作成中であり、公開は令和3年度中を予定している。

ｂ　公表方法

・大学ホームページ上に公開する

③　認証評価を受ける計画

完成年度以降の早い時期に評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受けるべく、今後、学内で検討を進める。開学３年目の令和３年度を目途に中間報告としてまとめ、外部有識者による評価を受けることとしている。

（注）・　設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「①　設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「②　自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（５） 情報公表に関する事項

○　設置計画履行状況報告書（令和３年度）

ａ　公表予定の有無　〔　有　・　無　〕

≪ａで「有」の場合≫

ｂ　公表（予定）時期　〔　調査結果公表後１ヶ月以内　・　公表後２～３ヶ月以内　・　公表後３ヶ月以降　〕

ｃ　公表方法　〔　ウェブサイトへの掲載　・　その他（　　）　〕

≪ａで公表「無」の場合≫

ｄ　公表しない理由　〔　　〕

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

■アドミッションポリシー（求める学生像）

⑴ 柔軟性と協調性を有し、人との良好な関係を保つことのできる人
⑵ 看護専門職として地域の医療、保健の向上のために貢献したい人
⑶ 看護を学ぶ上で基盤となる基礎学力のある人
⑷ 健康と生活に関心があり、新たな課題に向かって自ら進んで学ぼうとする人
⑸ 自分の考えや行動に責任を持ち、自分の考えを伝えることができる人

■入学定員・選抜区分別募集人員

入学定員	選抜区分別募集人員								
	特別選抜			学校推薦型選抜		大学入学共通テスト利用選抜		一般選抜	
	総合型選抜 Ⅰ期・Ⅱ期 Ⅲ期・Ⅳ期	新潟県特別選抜 Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期	社会人特別選抜 Ⅰ期・Ⅱ期	公募推薦選抜 Ⅰ期・Ⅱ期	指定校推薦選抜 Ⅰ期・Ⅱ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅰ期	Ⅱ期
80人	15人		若干人	35人		30人			

■入学選抜試験日程

試験区分			願書受付期間（必着）	試験日	合格発表日	入学手続締切日
特別選抜	総合型選抜	Ⅰ期	2020年９月７日(月)～2020年９月18日(金)	９月26日(土)	11月２日(月)	11月20日(金)
		Ⅱ期	2020年10月５日(月)～2020年10月19日(月)	10月24日(土)		
		Ⅲ期	2021年３月４日(木)～2021年3月12日(金)	３月16日(火)	３月19日(金)	３月26日(金)
		Ⅳ期	※2021年３月19日(金)～2021年3月22日(月)	３月26日(金)	３月30日(火)	３月31日(水)
	新潟県特別選抜	Ⅰ期	2020年11月２日(月)～2020年11月９日(月)	11月14日(土)	12月１日(火)	12月11日(金)
		Ⅱ期	2020年12月１日(火)～2020年12月14日(月)	12月19日(土)	12月25日(金)	１月８日(金)
		Ⅲ期	2021年３月４日(木)～2021年３月12日(金)	３月16日(火)	３月19日(金)	３月26日(金)
	社会人特別選抜	Ⅰ期	2020年11月２日(月)～2020年11月9日(月)	11月14日(土)	12月１日(火)	12月11日(金)
		Ⅱ期	2020年12月１日(火)～2020年12月14日(月)	12月19日(土)	12月25日(金)	１月８日(金)
学校推薦型選抜	公募推薦選抜	Ⅰ期	2020年11月２日(月)～2020年11月9日(月)	11月14日(土)	12月１日(火)	12月11日(金)
		Ⅱ期	2020年12月１日(火)～2020年12月14日(月)	12月19日(土)	12月25日(金)	１月８日(金)
	指定校推薦選抜	Ⅰ期	2020年11月２日(月)～2020年11月9日(月)	11月14日(土)	12月１日(火)	12月11日(金)
		Ⅱ期	2020年12月１日(火)～2020年12月14日(月)	12月19日(土)	12月25日(金)	１月８日(金)
大学入学共通テスト利用選抜	Ⅰ期		2021年１月14日(木)～2021年１月27日(水)	―	２月15日(月)	３月２日(火)
	Ⅱ期		2021年２月15日(月)～2021年2月22日(月)	―	３月５日(金)	３月19日(金)
一般選抜	Ⅰ期		2021年１月14日(木)～2021年１月27日(水)	２月6日(土)	２月15日(月)	３月2日(火)
	Ⅱ期		2021年２月15日(月)～2021年２月22(月)	２月27日(土)	３月５日(金)	３月19日(金)

※募集定員に達した場合は、選抜試験を行いません。（実施についてはホームページに掲載します。）

【資料２】

○長岡崇徳大学 ＦＤ委員会規程

（目的）

第１条　この規程は、長岡崇徳大学（以下「本学」という。）教授会規程第７条第７号の規定に基づき、本学にＦＤ（Faculty Development）（以下「ＦＤ」という。）委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる者（以下「委員」という。）をもって構成する。

（１）各専門領域から選出された教員　各１名

（２）教務・学生課長

２　委員会に委員長を置き、学長が指名した者をもって充てる。

（任期）

第３条　委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

２　委員に欠員が生じた時は、委員を補うことができる。この場合の任期は、前任者の残存期間とする

（審議事項）

第４条　本委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

（１）教育研究活動改善の方策に関すること

（２）初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関すること

（３）学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関すること

（４）ＦＤに関する教員への各種コンサルティングに関すること

（５）その他ＦＤに関連すること

（議事）

第５条　委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

２　委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、出席委員の過半数をもって議事を決する。

３　委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

４　委員会は、必要に応じ委員以外のものを委員会に出席させ、意見を聞くことができる。

（実施事項の運用）

第６条　第４条の審議事項で決定した事項に関しては、教務委員会との調整を図りながら検討、実施するものとする。

（事務）

第７条　この委員会の事務は、教務・学生課において処理する。

（改廃）

第８条　この規程の改廃は、教授会の議決を経て、学長が決定する。

附則

この規程は、平成31年４月１日から施行する。